

魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年2月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、2月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW（2月分）」

東予地方局 地域農業育成室

■令和3年産「ひめの凜」の栽培面積が大幅に拡大

- 地域農業育成室は、各JA単位で「ひめの凜」の栽培説明会や個別訪問による新規栽培者の確保に努めた結果、令和3年産の管内（西条市、新居浜市、四国中央市）の栽培農家数は合計130人（集団含む）、栽培面積は169.5haで対前年比272%と大幅に拡大することになった。
- 当室では、認定栽培者を対象に3月から栽培講習会をJA単位で開催し、前年までの反省点を踏まえ、適正な茎数確保に向けた中干しの徹底など、品質向上を目指して栽培管理のポイントを指導していく。



J A周桑での栽培説明会

■西条青年農業者が花育セット販路拡大に向けて活動を開始

- コロナ禍で花の需要が減少してきたが、おうち時間を楽しむライフスタイルが定着したことから、地域農業育成室は2月4日と25日、西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班を対象に、新たな手法で花育推進と花の需要拡大に取り組むことを提案し、研修会を開催した。
- 会では、アドバイザーの指導により課題と方向性を整理し、実践班でInstagram（インスタグラム）からECサイトを立ち上げ、教育用、家庭用、企業用に花のある生活を提案することを決定した。
- 会員からは「全国の保育園や小学校に花育セットを届けたい」「お客様に季節に合わせたバラや多肉植物を毎月提供したい」「夏はバラのドライフラワーの作り方を案内したい」などの意見が上がり、花育セットの販路拡大と併せて、花の定期購入セットの商品開発を行い、6月のECサイト立ち上げに向けて今後協議を重ねていく。



花の販路拡大の方法を協議



バラと多肉植物の花育セット

■たまねぎの病害虫に注意を喚起

- 地域農業育成室は2月25日、JAえひめ未来管内のたまねぎ（13名、21ha）ほ場で、病害虫防除所及びJAと連携して病害虫の発生状況を調査した。
- 同調査は令和2年産たまねぎで鱗茎腐敗症が多発したことから発生軽減のために実施。今回は今シーズン最初の調査で、生育は概ね順調であったが、定点ほ場8か所中、べと病が1ほ場、アザミウマ類が3ほ場で確認された。
- 当室では、早急に薬剤散布を行うようJAを通じて生産者に周知し、防除の徹底を指導していく。
- この調査は今後、月1回程度のペースで実施し、病害虫の早期発見による発生抑制と高品質安定生産につなげていく。



ほ場での病害虫発生状況調査

■新規就農者がやりがいのある農業経営を目指し家族経営協定を締結

- 地域農業育成室は2月25日、東予地方局西条第二庁舎で家族経営協定調印式を開催し、西条市農業委員会事務局長、西条市農水振興課長、当室室長の立会のもと、新規就農者夫婦1戸が締結した。
- 締結した夫婦は、JA周桑営農管理研修センターで野菜栽培研修を終えた妻が就農するのに合わせ、夫婦での話し合いをもとに協定書を作成。「経営の早期安定とゆとりある生活」を目標に、経営主が肉用牛部門を、妻が施設野菜部門を担当し、共同経営者として、役割と責任を明確にした内容となっている。
- 立会人からは「今後も夫婦で十分話し合い、夢の実現に向け頑張ってほしい」「将来は地域農業者の核となることを期待している」との激励の言葉をいただき、締結者は「農業経営の早期安定を目指し、今後も夫婦で話し合いを行いパートナーとして農業経営に取り組んでいきたい」と抱負を述べた。
- 今後、夫が就農時に作成した青年等就農計画を見直し、夫婦で共同申請し認定新規就農者としての認定を目指す。
- 当室では、経営の早期安定と確立を関係機関と連携し支援していく。



協定書に署名捺印する夫婦



立会人と共に

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■うま茶振興協議会の設立

- 四国中央農業指導班は、高齢化による労働力不足の茶産地の振興とコロナ禍で低迷しているお茶の販売強化のため、四国中央市等関係機関とともに、2月15日、「うま茶振興協議会」(会長：脇純樹、事務局：四国中央市農業振興課)を設立した。
- 当班は、今後、当協議会活動を中心に、生産基盤の強化、担い手対策及び販路拡大等を図るため、茶園の現況調査や統一ブランド化に取り組む。



うま茶振興協議会設立総会

■天満上集落のアンケート調査結果を周知

- 四国中央農業指導班は、昨年12月15日から2月1日までの間、四国中央市農業振興課とともに天満上基盤整備地区の人・農地プランの実質化に向けたアンケートを実施・回収し、第1ステップが完了した。
- 2月6日の天満地区集落活性化検討会役員会では、アンケート結果を確認し、将来的には耕作できなくなる農地の受け皿になる担い手の育成やそれに伴う農業機械等の整備支援が必要であることを確認した。
- 今後、結果を集落内の耕作者に郵送で周知するとともに、地区による見える化を進め、集落の活性化について協議していく。



天満上地区集落活性化検討会役員会

東予地方局 産地戦略推進室

■絹かわなすの育苗を定期指導

- 産地戦略推進室は2月17日、JAえひめ未来と連携し、絹かわなすの育苗を請け負う農家に育苗管理の技術指導を行った。
- 絹かわなすの育苗は、昨年12月から始まり、絹かわなす部会の栽培分約2万株を育成中であり、肥培管理、病虫害防除等の定期的な指導により、良質な苗育成に努めている。
- 今年度は、湿度上昇による病害が一部発生したが、定期指導時の診断により早期に対応できたため、苗の品質は良好である。
- 今回は、定植を間近に控えるハウス半促成栽培農家1人と一緒に訪問し、苗の生育状況を確認。その後、苗は適期となる2月23日に定植し、栽培を開始した。



ハウス栽培予定農家と苗の確認

今治支局 地域農業育成室

■新規就農者の確保に向けた「令和2年度就農啓発講座」を開催

- 地域農業育成室は2月8日、今治南高校園芸クリエイト科の1、2年生58人を対象に「令和2年度就農啓発講座」を開催した。
- 講座では、県農業指導士の西部知香氏、今治地区青年農業者協議会長の越智昭夫氏から「先輩農業者からの提言」と題し、自身の経験や高校生が今から実践できることについて講演頂いた。
- 当室は、愛媛県立農業大学校への進学や管内の新規就農者の動向や特徴について情報提供を行い、就農に向けた具体的な道筋を生徒に示した。
- 参加した生徒からは「地産地消の大切さを学ぶことができ良かった」「しまなみグリーンツーリズムの活動について知り、すごいと思った」「将来就農を考えているので、就農に向けてより勉強を頑張りたい」といった感想があった。



就農に関する情報提供を行う普及指導員

■今治と八幡浜の農業女子がオンラインで交流

- 地域農業育成室は2月5日、「コロナ禍での加工品や地元食材の販売方法等の情報交換」を目的に、オンライン交流会を開催し、今治と八幡浜の農業女子及び担当普及指導員等11人が参加した。
- 会では、参加者からコロナ禍で予定していたイベントが開催できず、加工品の売上が伸びなかったため関係機関等の販売活動に参加したことや、地元食材を使った料理の冊子を作成配布し地元食材の再認識に役立った等の活動報告があった。また、「オンラインの活用方法をもっと知りたいので、オンライン講座を企画して欲しい」との意見があった。
- 当室は今後も、オンラインによる経営力アップの講座を実施するなど「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」のメンバーとの交流を進めていく。



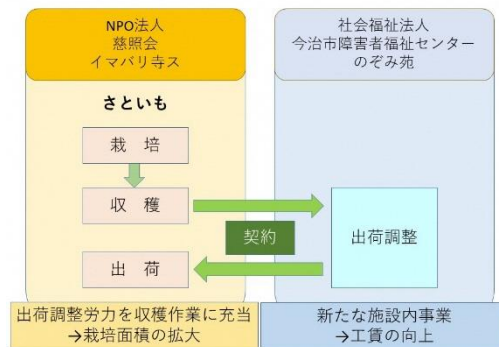
オンライン交流会

■新たな農福連携モデル「障がい者施設をマッチング」

- 地域農業育成室では、新たな農福連携モデルとして、2月16日に就労継続支援B型施設「NPO法人慈照会イマバリ寺ス」と「社会福祉法人今治市障害者福祉センターのぞみ苑」との障がい者施設間のマッチングを行った。
- 慈照会は、レモン等かんきつ5.4ha、水稻2.7ha、さといも等野菜0.5haを栽培する地域農業の担い手で、今後も規模拡大を図って利用者の工賃向上を目指している。今回労力の必要なさといもの出荷調整作業を近隣の障がい者施設に委託することで、その労力を収穫作業に充て生産拡大を図ることができ、のぞみ苑も新たな事業による利用者の工賃向上を図ることができるなど双方にメリットが生まれる。
- マッチング体験では、さといも100kgの出荷調整作業を特段の問題もなく半日で完了できたことから、今後、正式な契約による作業受委託を進める。



マッチング体験



マッチングモデル

■新規就農者のマルドリ栽培について技術改善指導

- 地域農業育成室は、マルドリ栽培での樹勢維持に取り組む、松尾坊ちゃん倶楽部（今治市菊間町）に対し、土づくりに重点を置いた技術改善指導を行っている。
- 従来のマルドリ栽培では、ほ場内にマルチシートを常時被覆したままであり、堆肥や苦土石灰の施用時にはマルチシートを一時的に除去しなければならず、土づくりへの取り組みが難しかった。改善策として、令和2年度の土づくり技術実証の結果を踏まえ、土づくりを効率的に行えるようマルチシートの被覆を新たに「開閉式」に改良するよう指導した。
- 今後は、マルチシートの開閉式を広く普及し、土づくりによる高品質果実生産を目指していく。



改善前（常時マルチシート被覆）



改善後（マルチシート開閉式）

今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■新規就農者の悩みを面談で聞き取り

- しまなみ農業指導班は、2月16日～25日にかけて次世代人材投資事業経営開始型受給者16人に対し、経営状況と栽培上の課題などを聞き取った。
- 管内対象者はかんきつ栽培者が多く、寒波で枝先が傷み、樹上にあった果実では苦みや腐敗果が発生し収穫量が半減した就農者もいた。また、「品種に合わせたせん定方法が分からない」との悩みもあった。
- 当班では、技術的な悩みに対し3月に個別にせん定指導を行い、栽培技術の向上と作業の効率を考えた園地づくりを進め、新規就農者の定着と経営安定を図っていく。



面談で悩みを語る受給者

今治支局 産地戦略推進室

■オリーブ冬期管理研修会を開催

- 産地戦略推進室は2月25日、今治市吉海町のオリーブ園で、オリーブ冬期管理研修会を開催した。
- 当日は、香川県オリーブファームアドバイザーの古川安久氏を講師に招き、生産者、地元企業、地域おこし協力隊等19人に対して生産性の向上を図るための基本的なせん定技術等を指導した。
- 意見交換では、出席者から200kg/10aの生産量を目標に、作業性の向上を図るための低樹高栽培や炭そ病等病害虫防除対策等について活発な質疑があり、しまなみ産オリーブ栽培技術の共有を図った。
- 当室では、情報を取りまとめしまなみ産オリーブ栽培指導マニュアル作成に活用する。



せん定技術について指導

■第2回ビブナム・ティナス等花木栽培塾を開催

- 産地戦略推進室は、1月27日～2月4日にかけて管内4か所で第2回ビブナム・ティナス等花木栽培塾を開催し、花木栽培を始めて間もない生産者の技術力向上を図った。
- 当日は、現地ほ場でせん定作業を中心とした実技講習であったことから、生産者の関心も高く計48人と多くの参加があった。
- 参加者からは「花木をせん定する意味を知ることができて良かった」等の意見が多くあった。
- 当室では今後、JAと連携したほ場巡回によりせん定作業の徹底を指導し、良質な花木生産を支援する。



ほ場での実技講習

中予地方局 地域農業育成室

■かんきつ庭先選別の省力化を検証（2回目）

- 地域農業育成室は2月22日、松山市興居島のかんきつ農家で、局予算事業「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」の一環で、画像解析選果機による庭先選別の省力化を検証した。
- 2度目の実証となる今回は、露地「せとか」を選果。前回の「伊予柑」選果と比較した結果、黒点病による外観品質のバラツキが大きく、再選果やコンテナ詰め時間に時間を要した。しかし、選果機の画像処理により目視確認項目は絞られるので、疲労軽減と品質が揃うことで評価点が高くなるなどの効果がある。
- 前回選果した「伊予柑」をJAで選果したところ、出荷重量に対する基準外重量（減量）は、手選果2.2%に対して機械選果は0.7%と低く有効性が確認された。
- 当室は、今後も導入農家やメーカーと連携し、他の農家へも普及できるよう改良や有効性を検証する。



写真右でレーンに乗せた果実は中央部で画像処理され、左の2人がコンテナに詰める。



せとかは、伊予柑以上に丁寧に扱って並べる。

■樹園地再編整備で産地の収益力を強化

- 地域農業育成室は2月9日、中予地方局農村整備第二課と連携し、「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用して園地整備を実施している松山市下難波地区で地権者9人を対象に営農部会を開催した。
- 同地区では、かんきつ園地の基盤整備により「「愛媛果試第28号」等の商品価値の高いブランド品種の導入」と「担い手への農地集積・集約化」を図り、「儲かる農業」の実現を目指している。
- 会では、基盤整備が完了した農地から順次かんきつの植栽や施設整備を行うこととし、令和4年3月から「せとか」の植栽を皮切りに、「愛媛果試第28号」や「愛媛果試第48号」等の栽培に取り組むことを確認した。
- 当室は、今後も「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム」で関係機関と連携し、儲かる柑橘経営モデルの実現を目指す。



栽培品種について意見交換

■いちごのハダニ類に対する天敵利用が拡大

- 地域農業育成室は、いちごのハダニ類対策として天敵の利用を推進しており、今年度は新たに4人（47a）が導入した。
- ハダニ類防除は、有効な薬剤が少ないことや葉裏に薬液がかかりにくいなど、対策に苦慮していることから、天敵による防除を普及している。
- 天敵を導入したほ場では、ハダニ類の発生が見られず、農家からは「農薬の散布回数が減り楽になった」「ハダニ類の防除に困っていたが解決できた」等の評価を得ている。



天敵の放飼

■中島の青年農業者が県オリジナルかんきつ品種の栽培を学ぶ

- 地域農業育成室は2月9日、松山市中島の青年農業者17人を対象に、県オリジナルかんきつ品種の栽培研修会を開催した。
- 会では、元みかん研究所長の加美豊氏から、「愛媛果試第28号」と「甘平」のせん定を学び、その後、ベテラン農家が若手農家に実技指導し技術習得の向上を図った。



講師の見本樹せん定を学ぶ会員



会員同士による施設「愛媛果試第28号」のせん定実施

■興居島地区女性農業者のかんきつ栽培の技術力向上に向けて

- 地域農業育成室は2月25日、女性農業者のかんきつ栽培の技術力向上を図るため、松山市興居島地区女性農業者の会「しとらす」の会員4人を対象にせん定講習会を開催した。
- 会では、若手普及指導員が講師となり、「伊予柑」のせん定方法について、実技を交えながら講習した。また、「不知火」の施設栽培方法や画像解析選果機等、先進事例を視察した。
- 参加者からは「自分の園地ではこうだが、この場合はどうせん定したら良いのか」、「同じ島内でも、地区が違えば作型や技術導入が全く違い、刺激になった」等の声が聞かれ、着実に技術力が向上している。



熱心にせん定方法について学ぶ



A I 選果機について会員の実体験を紹介

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■中間一発施肥で裸麦の多収&高品質栽培を目指す

- 伊予農業指導班は、裸麦の多収・高品質化に向けて、管内5か所のほ場で中間一発施肥による栽培実証に取り組んでいる。
- これは新たに導入した「ハルヒメボシ」の生育特性に応じて改善された技術で、基肥を施用せず、1月下旬から2月上旬にかけて、生育期間中に必要な栄養素を備えた肥料を1回で施用するもの。これにより、省力化と適正穂数確保、大粒化による多収・高品質化が期待される。
- 2月5日には、農業法人ほのぼの農園（松前町）の実証ほで、肥料散布の省力化を図るため、ドローンを使って施肥を行った。ドローンには10kgの粒剤が搭載でき、25aのほ場を約20分で散布できた。今後は収量調査等を行い、技術確立に取り組む。



ドローンでの施肥

■地域の郷土料理等の技術を動画配信開始！

- 伊予農業指導班は2月8日、伊予地区生活研究協議会と連携しSNSによる郷土料理等の動画の配信を開始した。
- これは、えひめ食文化保存継承活動の一環で、昔から伝わる郷土料理、伝統食材等を広く伝承するため、SNSで情報を積極的に発信していこうと調理方法を動画で撮影したもので、同協議会の活動紹介と併せてバラ寿司の調理法や鱧料理等の5つの調理動画を配信した。
- 同会員らは「若いお母さん方に見てもらい、昔から伝わる調理技術を学んでほしい」、「ほかにもたくさんあるので、これからも引き続き配信していきたい」と意欲的であった。
- 当班は引き続き、同協議会と連携して今年度末までに1～2つの動画を追加撮影し配信する。



動画のトップ画像の一例



動画配信画面に繋がるQRコード

■若手女性農業者を先輩協議会員がサポート！

- 伊予農業指導班は2月13日、伊予地区青年農業者連絡協議会の女性会員4人を対象に新規就農者交流会を開催した。
- 会では、就農年数の浅い女性農業者2人が、就農7年目の先輩女性農業者から、女性ならではの農作業体験や苦労話を聞くとともに自身の悩みを相談し、今後の経営の参考とした。
- また、育児等で多忙な女性会員の農作業の遅れを支援するため、砥部町青年農業者が日頃できない園地の管理作業を手伝った。毎年、農作業に不慣れな新規就農者を、青年農業者がサポートしており、技術指導と併せて交流を深めている。
- 当班では、今度も女性新規就農者の不安を取り除き、技術や経営能力の向上、組織活動への積極的な参加を支援する。



女性ならではの視点で農業体験を学ぶ



梅のせん定の片づけを手伝う青年農業者

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■経営改善につながる簿記記帳に向けて支援

- 久万高原農業指導班は12月3日～2月10日にかけて、久万高原町の認定農業者等を対象としたパソコンによる農業簿記講習会を開催し、25人（うち新規2人）が受講した。
- 会では、簿記を開始して間もない農業者からの基本的な記帳方法や収入保険、各種補助金、減価償却資産の取得や処分等の仕訳に関する相談に対応した。
- 当班では、農業者自らが経営状況を把握し、経営改善に取り組めるよう支援する。



経営改善方策を検討

■久万高原町「人・農地プラン実質化」の策定が進む

- 久万高原農業指導班は2月15日、久万高原町と連携してナベラ地区を対象に人・農地プランの実質化に向けた座談会を開催し、同プラン策定の合意を得ることができた。
- 同地区では、これまでコロナ禍のため、農家を集めた意見交換ができなかったことから、当班がリーダーを戸別訪問し、今後の担い手や農地対策について事前に協議していたことから、座談会でスムーズに同プランの合意形成を図ることができた。
- 同プランでは、地域農業を背負う中心経営体を10人とするとともに、「担い手班」を設置し、耕作者がいない農地の管理を引き受け、次世代へ継承することとした。
- また、同地区では「農業競争力強化農地整備事業」を活用し、水田の基盤整備を予定（令和5年工事着手予定）しており、当班は関係機関と連携しながら担い手への農地集積や高収益栽培に向けた営農計画の策定を支援する。



合意形成に向け人・農地プラン案を協議

■農村で生活していく心構えを学ぶ ～新規就農者の定着に向けて～

- 久万高原農業指導班は2月22日、久万農業公園農業研修センターの研修生6人を対象に就農に向けた研修会を開催した。
- 会では、地域おこし協力隊を経て今治市上浦町で就農した鍋島悠弥氏を招き、就農前後に苦労したことやその解決策、地域にいかに関わり込むかなど体験談を交えて話を聞き、農村地域で生活していく心構えについて話し合った。
- 話し合いの中で研修生のパートナー(妻)が地域で孤立しがちであるとの意見に対し、鍋島氏から「互いに尊重しあうことが大切」とのアドバイスを受けた。
- 研修生からは「移住・就農での困りごとは自分にも当てはまる」、「就農し地域で生活していく際の参考になった」との意見が聞かれた。



鍋島氏の話聞く研修生

中予地方局 産地戦略推進室

■「さくらひめ」鉢物の春先出荷に向けた栽培管理のポイントを指導

- 産地戦略推進室は2月17日～19日にかけて、花き研究指導室と連携して「さくらひめ」鉢物の春先出荷に取り組む生産者を巡回し、播種時期に応じた摘心の方法や時期、適正な温度管理などボリューム感のある鉢物生産に向けた今後の栽培管理を指導した。
- 中予管内では、10戸の生産者が「さくらひめ」の鉢物を栽培しており、出荷は11～1月の年末年始と4～5月の母の日向けに大別され、東京や愛知、兵庫、松山等の各市場に出荷されている。
- 今年度は、厳寒期の2月の気温が高く推移しており生育は概ね順調で、管内全体で約8,000鉢の春先出荷を見込んでおり、当室では引き続き定期的な巡回や個別指導を行い、「さくらひめ」鉢物の高品質安定生産に繋げる。



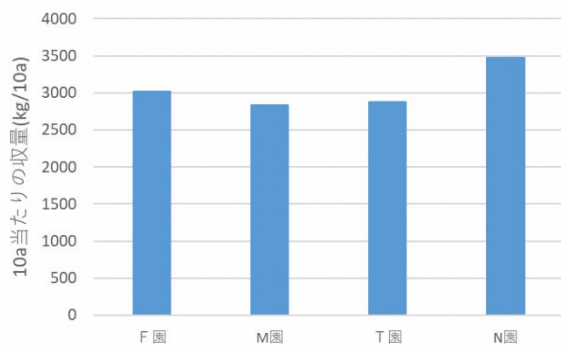
生育状況の確認と今後の栽培管理を指導

■大枝別交互結実法による「甘平」高収益栽培モデル園の成績良好

- 産地戦略推進室は1月14日～2月8日にかけて、「甘平」の連年安定生産に向け、大枝別交互結実法による隔年結果の改善や適切なかん水管理による裂果対策等を実証する「高収益栽培モデル実証園」4カ所で収量調査を実施した。
- 実証樹の平均収量は3.1t/10a、果実階級は2L～4Lが80%以上と良好な結果が得られ、産地内でも大枝別交互結実法が隔年結果の改善に有効との認識が広がっており、モデル農家1戸では次年度の開花状況を確認後、施設内の全ての樹に対して大枝別交互結実法を導入する見通しとなった。
- 実際の収穫量は隔年結果だけでなく裂果の影響を大きく受けることから、当室ではこれらの対策を組み合わせた総合的な栽培体系の確立を目指し、引き続きモデル園を活用した有望技術の実証と農家へ波及を図る。



大枝別交互結実法導入樹の収穫時の状況



高収益栽培モデル園の令和3年産の収穫量

南予地方局 地域農業育成室

■西条農業高等学校で南予農業の魅力を発信

○地域農業育成室は2月3日、東・中予の高校生に南予地域の基幹産業である農業の魅力を発信するため、局予算「南予農業魅力発信支援事業」による南予農業魅力発信セミナーを西条農業高等学校と講師をオンラインで結んで開催し、生徒70人が参加。



オンラインで講演する講師

○セミナーでは、「えひめ愛顔の農林水産人」で紹介されている山口一彦氏（ベルグアース（株）代表取締役社長）と山内直子氏（YAMAUCHI FARM 代表）がそれぞれ、「農家の息子として生まれ接木苗日本一になるまで」「ブラッドオレンジを使った商品開発」について講演を行い、南予の魅力について情報発信した。

○山内氏は「ぜひ南予のみかん園地に足を運んでね」と呼びかけ、参加した生徒からは「成功している農業者の話が聞けて、南予の魅力が分かった」「次回はオンラインではなく、直接、話を聞きたい」と好評であった。

○当室は、南予での就農に繋がるよう、引き続き高校と連携して就農支援の制度や農業法人の雇用等の情報を提供していく。

■ビワの高品質生産、軽労化を目的に摘果・袋掛け講習会を開催

○地域農業育成室は2月17日、(株)源吉兆庵向けのビワ生産者3人を対象に、摘果・袋掛け講習会を開催し、作業のポイントと軽労化技術を指導した。



簡易フックによる軽労化技術を実演

○当室はこれまで、寒波を見越して多めに花を残すよう指導していたが、1月上旬の寒波の影響は少なく、今後は、良質な果実を見極めた摘果が重要となるため、通常より遅い2月末からの作業開始を呼び掛けた。

○また、袋掛けはビワ栽培の中で最も時間を要し、農家負担の大きい作業であるため、簡易フックを使用した軽労化技術を実演した。参加者からは

「脚立を使用せず、高い枝の果実に両手を使って作業ができる」と好評であった。

○当室は引き続き、軽労化栽培技術の実証・普及を図るとともに、関係機関と連携して新たな生産者の確保を図り、安定した出荷に繋げる。

■青年農業者を対象に県内の鳥獣害対策先進事例調査を実施

○地域農業育成室は2月4日、近年増加している鳥獣被害が経営を圧迫するなど産地の重要課題となっていることから、宇和島市青年農業者連絡協議会員5人を対象に、今治市及び松山市で鳥獣害対策先進事例調査を実施した。

○調査では、今治市玉川のサル用大型捕獲檻（地獄檻）や農林水産研究所の遠隔監視システムを利用したイノシシの大型捕獲檻、松山市でジビエの利活用を行う高縄ジビエを視察し、各地域の課題や対策、今後の方向性について学んだ。

○会員からは「動物の目線に立った鳥獣害対策の必要性を理解した」「自分の園地でも可能な限り対策に取り組みたい」と意欲的な声が聞かれた。

○当室は、今後も青年農業者のニーズに応じた活動を支援し、担い手としての資質向上や経営安定を図る。



サル用大型捕獲檻の説明を受ける青年農業者

■新規就農者を対象に果樹の接木や小農具のメンテナンス方法を指導

○地域農業育成室は2月16日、認定新規就農者を中心とする新規就農者6人を対象に、第5回ニューファーマー講座「果樹の接木及び小農具のメンテナンス方法」を開催した。

○講座では、当室の果樹担当職員が「切り接ぎ」と「腹接ぎ」の特徴やコツ、注意点などを説明した後、実際にかんきつの枝を用いて接木方法を実演した。また、せん定ばさみや接木ナイフ等の管理の仕方についても説明・実演した。

○参加者からは「実物を用いて非常に分かりやすかった」「道具を長く使えるコツがわかったので実践してみたい」との意見があった。

○当室は、今後も新規就農者を対象に各種講座を計画し、新たな担い手の資質向上や早期経営安定を図る。



切り接ぎの方法について実演指導

■I ターン就農希望者を対象に独立就農を想定した就農研修会を開催

- 地域農業育成室は2月12日、I ターン就農希望者4人を対象に、独立就農をする際の園地や農業用機械、施設の確保方法等について学ぶ就農候補者支援研修会を開催した。
- 会では、ベテラン農家で研修生の受入れ等も行っている(株)玉津柑橘倶楽部代表取締役社長の原田亮司氏と(株)この果樹園代表取締役社長の河野徹氏を講師に迎え、独立就農時の流れや各種補助事業の活用事例、就農希望者の悩みや受入れ農家側の考えなどについて座談会形式で情報交換を行った。
- 就農希望者は「補助事業等分らないことが多かったので参考になった」「地域の中核となる受入れ農家の様々な意見が聞ける良い機会となった」との意見が上がった。
- 当室は、今後もI ターン就農希望者を支援し、新たな担い手の定着支援に取り組む。



ベテラン農家の体験談を聞く就農希望者

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■新規栽培者向けのハウスきゅうり栽培塾を開催。若手が栽培に意欲

- 鬼北農業指導班は2月5日、きゅうり産地の再興に向けた取組の一つとして、ハウスきゅうりの新規生産者及び新規栽培希望者7人を対象に、栽培に必要な基礎知識や栽培技術を学ぶ「ハウスきゅうり栽培塾」を開催した。
- 塾では、理想的なハウス構造ときゅうりの仕立て方法や機械・かん水資材などの選び方、初期投資金額や農薬・肥料等の単年度経費、目標収量や目標所得等のほか、過去5年間の市場単価の推移から、理想の定植時期と収量を上げるための品種の選定、ビニールの張替えサイクル等について説明した。
- 参加者からは「ハウスに応じたきゅうりの仕立て方法が参考になった」「ビニールの張替えサイクルなど具体的なことが分かって良かった」との声が聞かれた。
- 今年度、ハウスきゅうり新規生産者は2名増加し、次年度も若手の数名が興味を示していることから、当班は引き続き、現地研修や栽培塾を開催し、新規栽培者の確保・育成を図る。



若手が多く参加したハウスきゅうり栽培塾

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■ブロッコリー根こぶ病対策に有効な手段を報告！

- 愛南農業指導班は2月5日、春ブロッコリー生産者15人を対象に、トラクタ等に付着した土壌を介してほ場間伝播し、特に産地を担う大規模生産者を中心に栽培上の大きな課題となっている「根こぶ病」対策について講習会を開催した。
- 根こぶ病は、概ね春と秋に発症し、特に春は気温上昇に伴い薬剤防除のみでは防除が難しいことから、おとり作物（エンバク）を用いて土壌中の菌密度を減らすなど、未発生ほ場も含めた総合的な防除が必要である。
- 会では、当班が実施した、おとり作物と薬剤防除併用による菌密度低減効果の実証試験結果について、確実な菌密度低減効果が確認でき、有効な手段であることを報告した。
- 生産者からの関心も高く「次期作前にチャレンジしてみたい」「採算がとれるのか」との声が聞かれた。
- 当班は引き続き、ブロッコリー収穫後等の土壌中の菌密度を調査し、コストを考慮しながら、効果の高い総合的防除手法を検証する。



関心を示す生産者たち

南予地方局 産地戦略推進室

■うめ加工品を製造する生徒らが栽培を体験

- 産地戦略推進室は2月8日、松野町のうめの魅力を伝え、産地の再興につなげるため、うめ加工品の製造に取り組む北宇和高校生を対象に「うめ栽培体験研修会」を開催。
- 当日は、当室の担当者が松野町のうめ栽培の概要について講義をした後、生徒らが（株）松野町農林公社の園地でせん定を体験するとともに、うめの一次加工施設なども見学した。
- 同高では今回作業を体験した生徒がうめジャムの商品化を予定していることから、当室は引き続き支援するとともに、他の食品加工事業者とも連携した新たなうめ加工品の製造・販売を通じて、うめ生産者の経営安定と松野のうめのPRを行う。



担当者による講義



せん定を体験する生徒

■河内晩柑園地と教室を結んだオンライン授業の開催

- 産地戦略推進室は2月10日、愛南町農業支援センターと合同で愛南町立柏小学校の3、4年生12人を対象に、同校と河内晩柑園地をオンラインで結んだ遠隔授業を行った。
- 当日は、河内晩柑を生産販売する(株)吉田農園から、愛南町は河内晩柑の生産量が日本一であることや、作業がしやすいよう園地の整備を進めていることなどを説明。
- 教室内では、当室から、美味しいかんきつ類の見分け方の説明と果実分析体験、同センターから、町内で栽培されているかんきつ類の説明と河内晩柑オイルを使った香水作り体験を行い、農業に対する親しみや関心を高めた。
- また、当室は同センター等と連携し、学校給食で河内晩柑を使ったメニュー作りを進めており、児童生徒らに食育を通して河内晩柑の魅力伝えていく。



園地と教室を結んだオンライン授業



果実の糖度分析に挑戦する児童

■コロナ禍における新しい生活様式に対応したイベント「第5回南予マルシェ」を開催

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は2月15日、宇和島恵美須町商店街で「第5回南予マルシェ」を開催。今回は「道の駅みま」「道の駅清流の里ひじかわ」「道の駅虹の森公園まつり」「菓子工房 KAZU」が参加し、旬の野菜や果物、地元農産物を使った加工品などを販売した。
- 当イベントの開催を重ねてきたことで、固定客が増加するだけでなく、産直施設が「甘平」や「さくらひめ」など本県オリジナル品種の販売・PRを新たに行ったり、商店街も自ら出店し賑わい創出の取組を展開するなど相乗効果が生まれ、地域イベントとしての機運が醸成されつつある。
- 第6回は3月8日に八幡浜市新町商店街の八日市で開催（同商店街では2回目）する予定で、引き続きコロナ禍での新しい生活様式に対応したイベント構築に取り組みながら、農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



さくらひめを購入する来場者



あまおとめを使った大福・タルトを販売

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■スマート農業加速化実証プロジェクトの成果報告会を開催

- 地域農業育成室は2月1日、気象ロボットによる園地管理の最適化やAI選果機による労働力削減等のスマート農業加速化実証に関する成果報告会を開催し、実証農家や関係機関・団体の関係者ら16人が出席した。
- この実証では、令和元年度から2年間、西宇和地域での未来型柑橘生産に向けて、気象ロボット、AI選果機、アシストスーツ等のスマート機器や農業クラウドを活用したスマート営農体系の確立を目指してきた。
- 会では、気象ロボットの環境データと果実品質、アシストスーツの疲労度軽減効果、AI選果機と家庭用選果機による精度や選果時間の比較結果等を報告し、実証結果を今後どのように活かしていくかを検討。
- 農家からは「今後、地域に普及していくためには、スマート機器の導入効果の明確化とコスト低減が課題」との声があった。
- 当室では、報告会を踏まえ、今後、気象ロボットのセンシング情報による施肥、かん水量の最適化、AI選果機による庭先選別の省略等、生産から出荷までのスマート営農一貫体系の確立を目指していく。



実証プロジェクトの成果を検討



AI選果機による実証

■農事組合法人笑柑園ナカウラが高収益農業を視察研修

- 地域農業育成室は、昨年9月に法人化した伊方町の農事組合法人笑柑園ナカウラに対し、経営的な自立を図る手法の一つとして、マルドリ栽培の導入を進めており、2月17日、先進事例である今治市の松尾坊ちゃん倶楽部の視察研修を実施した。
- 当日は組合員6人が参加し、「愛媛果試第28号」でのマルドリ栽培技術の特徴やポイント、収益性などについて、今治支局地域農業育成室及び生産者と意見交換を行った。伊方町の条件不利地でも、若い農業者が継続できるよう施設化や新技術の導入による、収益性の高い農業の必要性を再認識した。
- 当室は、次年度地方局予算等により、マルドリ栽培の導入や将来的な基盤整備を念頭に支援を強化する。



マルドリ栽培について意見交換

■管内初、かんきつ経営の事業承継で担い手確保

○2月18日、八幡浜市川上地区で、JAにしろわで農業研修を修了した県外出身の風間氏と、研修を受け入れた川上担い手支援チームの清水氏との間で、管内初となる第三者との事業承継覚書の締結がなされた。当日は、JA、川上共同選果場、地域農業育成室の担当者の立会のもと、関係書類への調印が行われ、風間氏が清水氏の農地を引き継ぎ、当面は技術指導を受けながら、かんきつ経営を行うこととなった。

○清水氏から「我が家には農業後継者がいなかったが、良い若者と引き合わせてもらい、感謝している」との話があり、風間氏からは「これから夫婦で力を合わせて頑張っていきたい」との抱負が述べられた。

○当室では、今後も関係機関と連携し、研修生の技術指導や就農へ向けた支援を行う。



事業承継の調印

■せん定による高品質栽培を!!

○地域農業育成室は、就農3年までの新規就農者を対象としたかんきつ栽培講習会「シトラス講座」(全6回)を、ケーブルテレビ等で発信している。

○第6回のテーマは「かんきつのせん定」。せん定の目的や結果習性、作業のポイントについて図を用いて説明した後、園地で温州みかんと中晩柑類(「不知火」)のせん定方法の違いに触れながら、それぞれ実演を行った。

○2月19日から八西CATVで21回放送され、現在は八西CATVや県のHP、県庁公式YouTubeで視聴可能。

○今年度のシトラス講座は、新型コロナウイルスの影響によりメディアを利用する形をとったが、青年農業者からは「YouTubeを見て勉強している」「去年は作業が忙しくて現地講習会には行けなかったのだから、家で見るのがありがたい」との声が聞かれた。

○なお、当室では、せん定について現地講習を求める声もあったことから、3月上旬に新規就農者を対象に講習会を予定している。



結果習性の説明



「不知火」のせん定のポイント

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■青年農業者がコロナ禍でのプロジェクト活動を報告

- 大洲農業指導班は2月18日、大洲喜多地区青年農業者連絡協議会（会長：玉川博将）と連携した青年農業者プロジェクト発表会を開催し、会員のほか認定農業者や関係機関職員等23人が参加した。
- 例年、認定農業者との合同研修会の一部として発表会を開催していたが、新型コロナウイルス感染防止を考慮して規模を縮小したもの。
- 今年度の協議会活動が大幅に制限され、従来の活動ができなかった反面、情報発信やSNSの活用など新たな生活様式に対応した組織活動の報告があった。
- 審査員である農業指導士からは「コロナ禍だからこそその新たな取組に期待している。協議会内にとどまらず地域への波及に向けて取り組んでほしい」と、エールをいただいた。
- 当班は、今後も関係機関・団体と連携しながら、青年農業者組織の意欲的な活動を支援する。



青年農業者によるプロジェクト発表



農業指導士からの講評

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■「(農事組合法人) いのべにし」、農事組合法人の経営を学ぶ

- 西予農業指導班は2月5日、重点指導対象の(農事組合法人) いのべにしに対し経営研修会を実施し、東温市の(有)ジェイ・ウィングファームを視察した。
- 平成30年1月設立の(農事組合法人) いのべにしは、土地利用型作物(水稲・小麦・大豆・飼料米)の栽培と高収益作物(青ネギ、さといも)の導入に取り組んでいる。
- (有)ジェイ・ウィングファーム代表取締役の牧秀宜氏から「水稲の生産を安定させ、構成員の信頼を高めることが、経営改善の第一歩である」「消費者・事業者が求めるものを生産し、売り先を確保することが重要である」とアドバイスを受けた。
- 当班は、高収益作物の導入による多角経営を推進するとともに、土地利用型作物の安定生産を指導していく。



雑穀用乾燥調製施設を見学



耕作地図の説明を受ける

■大野ヶ原にんにく産地化に向けて組員と意見交換会を開催

- 西予農業指導班は、西予市大野ヶ原で寒地系にんにく「ホワイト6片種」の産地化を支援しており、今年度の実証結果を踏まえて、今後の栽培・加工計画を検討するため、2月8日、大野ヶ原にんにく組合の13人が参加して意見交換会を開催。
- 組合代表が、これまでの栽培状況や今後の予定について説明。組員からは初の栽培取組のため、特に植付け時期や収穫時期などの判断について指導を求める声が多く聞かれた。今後は同組合として生産体制を整え、安定生産につなげるとともに、企業と連携して県内出荷を主とした販路開拓を進めることで知名度アップを図ることを申し合わせた。
- 当班は、同組合と連携し、植付け方法や適正施肥管理、病虫害防除など安定生産に向けた栽培技術の確立と種子用にんにく確保に向けた実証試験を行い、加工・販売まで見据えた産地化に向けて支援していく。



積極的に意見を交換

■郷土料理「ひな豆」づくりを伝承！

- 西予農業指導班は2月28日、西予市教育保健センターで食文化普及講座の開催を支援。宇和町生活研究協議会の会員2名が講師となり「ひな豆」づくりのコツを伝承した。
- 昨年はコロナ禍で中止となったが、感染症対策を徹底した上での1年越しの開催に、昨年も申し込みのあった市内の親子6組18人が参加した。
- 当班では、家庭で作りやすいように大釜ではなく26cm鍋のレシピを作成し実習することを提案するとともに、地場産品を生かしたアレンジ方法も紹介した。
- 初めて自分で作るという参加者が大半で「祖母が作っていたが作り方を知らなかったので良かった」「子どもと家庭でも作りたい」といった声が聞け、受け継がれてきた郷土料理への関心を高めることができた。



糖液加熱のポイントを説明



固くなりにくいコツを伝授

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■フィンガーライム施設整備で栽培面積が拡大！

- 産地戦略推進室が新たな産地づくりを目指すフィンガーライムについて、今年度、管内5名の農家が加温施設を導入。9月から順次着工していた7棟14aの施設整備が、2月末にほぼ完了した。
- 当施設の整備は、県の「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業」を活用。事業実施主体である生産者組織の「フィンガーライム産地化推進協議会」では、着花を安定させ、通年で高品質果実を生産・供給するため、施設栽培を奨励している。
- 今回、施設整備を行った5名の内4名は新規栽培者であり、栽培意欲も高まっている。管内の栽培者数は5名で面積は20aとなり、生産量も3年後には1,000kg程度に拡大する見込み。
- 当室では今後、新植園地での樹体の生育状況を把握し、適切な幼木管理の指導を行いながら、新規栽培者の技術習得に努める。



新設されたフィンガーライム施設

■「不知火」・「清見」の台湾輸出を試験的に実施

- 産地戦略推進室は2月3日、露地栽培の「不知火」及び「清見」の台湾での試験販売について、生産者である伊方町の増田農園とブランド戦略課を交えて協議した。
- 増田農園は、かねてから海外輸出に興味を示しており、昨年産から輸出に対応した防除体系で栽培するなど、本人の要望を基に検討を重ねてきたところ。今年、ブランド戦略課を通じて輸出業者から具体的な取引について打診があり、実現した。
- 当日は、台湾輸出に必要な果実の残留農薬分析及び防除履歴の提出や、数量、規格、輸送方法、荷姿、輸出スケジュール等について申し合わせ、3月中旬以降に「不知火」500kg、「清見」500kgを上限に輸出することとなった。
- 当室では、今年の試験販売の結果を踏まえ、台湾輸出の本格実施に向けて継続的な支援を行う。



輸出用「不知火」の荷姿の確認

農産園芸課 高度普及推進グループ

■全国の食味コンクール上位入賞に向けた「ひめの凜金賞プロジェクト」始動

- 高度普及推進グループは2月10日、鬼北町の「ひめの凜」生産者が米の全国食味コンクール（以下、コンクール）で上位入賞を目指すための、栽培ほ場の選定や栽培管理の方針を定めた。
- 同生産者は、昨年もコンクールにエントリーしたものの、食味スコアが僅かに届かず、2次選考を逃したため、当グループの技術的な提案に興味を示し、上位入賞を目指すこととなった。
- まず、ほ場で水管理の重要性を説明し、作付け予定ほ場の明渠の設置や暗渠の排水状況を確認したところ、栽培期間中の水位を適切に管理するためには、冬季のバーチカルハローでの耕起に加え、3月中にサブソイラなどで心土破碎を施すことが必要と指導した。
- また、当グループは生産者との協議により、深水管理や中干しにより、分けつ数を完全にコントロールしながら食味向上のための適正な穂数を確保するなど、現地の立地条件等に応じた栽培計画書を作成した。今後、栽培期間を通じて食味スコア向上のための総合的なプロデュースを行う。
- なお、普及指導員作物調査研究会では、次年度、「ひめの凜金賞プロジェクト」として、コンクールの上位入賞を目指す生産者を対象に、良食味米生産に係る試験研究を各普及拠点と行う予定で、対象者への重点指導と調査活動を通じて「ひめの凜」の良食味米生産のメカニズムを明らかにし、今後の高品質生産のロールモデルとして活用することとしている。



現地ほ場の排水対策（バーチカルハロー）

令和3年度「ひめの凜」金賞プロジェクト取組計画
所属：高度普及推進G.

1 選定農家概要

協力農家名	あう豊産（地所：鬼北町深田）		
ほ場条件	標高	用水	土づくり
	100m	ため池から自由に灌水が可能	緑肥すき込み
耕種概要	移植日	面積	敷種密度
	5/20、5/10直播	26a、29a直播	37株/坪、3kg/10a

2 試験栽培の概要

<品質向上に向けたねらいと取組>

ねらい①：穂数を336~445本/m²までに制限し余分な穂をつけない。

- ・移植前2回のサブソイラでの弾丸播種による排水性向上で速やかな中干しの実施を可能にする。
- ・緑肥をすき込み、基肥を減肥(マニュアル比N50%減)により初期生育を抑制し過剰分けつ防止。
- ・中干し開始を移植後35日、直播区は4葉期とし、やや厳しめに実施し過剰分けつを防止。
- ・中干し前にアミノ酸資材を施用し、中干し後の生育を良好に保つ。

ねらい②：穂に対して十分な養分を転流させ、大粒を作る。

- ・中干し後は遅熟気味の離断かん水（又はかけ直しかん水）で根に酸素を供給するとともに、乾かさないうちで土壌中の養分供給を回す。
- ・中干し後にPK資材を追肥し、中干し後の土壌からの養分吸収をスムーズにする。
- ・減肥施用の有無・量は葉色を見て診断し、収穫前は早期灌水をしない。

コンクール上位入賞に向けた栽培計画書

■さといも種芋が水に浮く原因を調査

- 高度普及推進グループは、昨年生産されたさといも種芋が、消毒液に浸漬した際に浮いてしまうものが多く、種芋としては不適合と判断される事例があったことから、普及拠点及びJA担当者等と調査を行った。
- 2月15日に種芋生産者の芋貯蔵ハウスを調査したところ、栽培中の土壌の乾湿等により芋表面に深い傷ができ、コルク層が厚くなった芋が浮く傾向にあり、浮いたものでもコルク層を薄く削ると沈んだことから、乾燥によりコルク層の気相が増したことが浮く原因であることを確認した。
- また、浮いた芋を輪切りにしたところ、罹病もなく、ヨードデンプン反応でも芋全体が濃い青紫色に反応したことから、当グループは、2月22日に宇和島市で開催されたさといも技術協議会の席上で、浮いた芋全てが罹病芋やデンプンが損なわれた芋とは限らず、一律に不適合と判断しないよう注意喚起を行った。
- 当グループは、今後浮いた芋を定植して生産能力の有無を調査することとしており、県下の種芋の安定供給体制の整備に取り組む。



調査結果の説明資料



さといも技術協議会における調査結果の報告

■いちご高収益園地を分析し、反当7t収穫シミュレーションを策定

- 高度普及推進グループは2月10日、西条市のいちご生産者園地で、第2回野菜調査研究会を開催。県内各拠点の普及指導員のほか、JA全農えひめ、県内JA営農指導員等18人が参加した。
- 当グループからは、これまでに調査を行った反当7t以上を収穫する園地では、排水性を高める土壌環境等を作ること等により、着果負担が掛かる11月までに充実した株を育成し、第2、3花房で複数の強い芽をスムーズに出蕾させ、合計50花以上の開花数を確保していることを報告した。また、これまでの高収益園の収量パターンの解析から、反当7t以上を収穫するためのシミュレーションを説明し、当グループで行っている新規格の高設栽培システム実証区も同等以上に生育していることを報告した。
- 生産者からは「高単価であった年内どりのメリットも感じにくくなっている以上、収量でカバーする必要がある」「(実証区について)費用対効果の面から見ても十分な収量増加が見込める」との意見があった。
- 当グループは、東温市のほ場でも、今回策定したシミュレーションと同等の収量パターンとなっていることを確認しており、今後、実施する宇和島市の高収益園での調査結果等と合わせて、次の調査研究会で報告する。

調査結果:西条市(土耕区②)

多量(10t/10a)の堆肥投入、8/17夜冷開始、9/14定植

- 第2花房:2芽で、総花数 21花
中以上の花が43.5%
- 第3花房:3~5芽で、総花数 30花

定植時の苗は比較的小苗であるものの
活着以降、旺盛な生育により連続出蕾

第2~3花房で着花数は50花超え

No.	第2花房	第3花房	合計
No.1	25	25	48
No.2	23	14	41
No.3	11	34	45
No.4	29	28	57
No.5	27	24	51
No.6	14	31	51
No.7	15	37	52
No.8	23	40	63
No.9	23	31	54
No.10	27	34	61
平均	21.4	30.4	51.8

	合計	小	中	大	合計花数
第2花房	21.4	1.1	7.4	1.8	
第3花房	30.4	21.6	7.8	1.4	51.8
	100%	71.5%	28.2%	5.3%	



調査結果:西条市(新システム実証区)

大容量培地栽培、8/17日夜冷開始、9月13日定植

- 第2花房:1芽~2芽で、28.9花
中以上の花が33.2%
- 第3花房:3~6芽で、25.5花
中以上の花が38.8%

第2~3花房で着花数は50花超え

土耕区と遜色ない生育量を確保
定植初期からの強い草勢を維持、新葉の展開もスムーズ

No.	第2花房	第3花房	合計
No.1	15	30	45
No.2	27	17	44
No.3	19	17	36
No.4	39	25	63
No.5	21	30	51
No.6	36	24	60
No.7	31	21	52
No.8	37	31	68
No.9	20	25	45
No.10	26	19	45
平均	28.9	25.5	54.4

	合計	小	中	大	合計花数
第2花房	28.9	19.3	5.9	2.7	
第3花房	25.5	15.6	7.8	2.3	54.4
	100%	68.8%	23.5%	9.3%	



反当8.5tの高収益園(土耕)の収量パターンを分析

新規格の高設栽培実証区の収量パターンを分析

■「甘平」の裂果要因の解明と対策技術の確立に向けて研究会を開催

- 高度普及推進グループは2月12日、県庁と県下の各普及拠点等をオンラインで繋ぐリモート形式で、第5回普及指導員果樹調査研究会を開催。若手普及指導員等40名が参加し、「甘平」の裂果要因の解明と対策について意見を交換した。
- 各普及拠点からは、県下14か所に設置した裂果率が低いとされる優良園地の根群調査等の結果が報告されるとともに、当グループはこれまでの調査結果の総括として、裂果は高温乾燥時の土壌水分不足に起因するケースが最も多く、特に根域が浅く吸水が不安定になりやすい園地や、着果過多等による果実の生育ストレスで一時的に果実肥大が緩慢になっている園地等で裂果が助長されていることを報告した。
- また、当グループは、対策として収穫後から生育期間中の徹底したかん水により、土壌の下層域まで安定して湿潤な状態を維持することが重要であり、特に根域の深さに応じたかん水方法や保水対策等が重要であると総括した。
- 次年度の果樹調査研究会は、今年度の調査活動を基に各普及拠点で対策技術の再現実証を行うこととしており、当グループは、引き続き「甘平」の裂果対策技術の確立に取り組むとともに、調査研究会の活動を通して普及指導員の指導力向上を支援する。

裂果要因と対策(総括)		要因の分類	
		A (共通)	B (水田転換園等)
裂果要因		根域の土壌水分が不足 湿潤な状態が安定して維持できない ※かん水不足 ※かん水方法の不備 ※健全な根群(小根群)の維持、確保が困難	根域が浅い 土壌上層域の根による吸水が中心 ※高温乾燥、降雨等の影響を受けやすい → 吸水が不安定
		果実の生育ストレスの増大 高温乾燥時の果実肥大の抑制、その後の肥大回復による生育の急激な変化 ※樹勢低下 ※着果過多 ※その他栽培管理に起因	※新種の場合は、根が浅く土壌改良(過炭酸、保水性等)が重要
対策		適切なかん水の徹底 収穫後～裂果期(10月頃)の間は、下層部まで水分を安定して供給 ※数ヶ月経過後の適正土壌湿度 → 基本は、根域下全体が湿るよう配置 ※例えば、高圧チューブは1mの間隔 【基本的なかん水モデル】 ・収穫後から開始: 30mm・3回 ・3～10月: 150mm以上/月 ※点灌は毎日5mm、他のかん水では間隔を5日以内とする(梅雨明け～9月は、3日以内)	樹勢維持 ※適切な施肥 ※充実した根群を確保、新葉の健康を確保し肥培管理 適正着果 ※樹勢、着果量等に合わせた摘果 ※樹勢が生育ストレスの悪化、果実のスムーズな生育促進、根の活性化
		上層部(根域)土壌の水分維持 根域が浅い、また乾きやすい園地は、根域土壌の安定した水分保持を徹底 ※灌水頻度を上げる → 毎日、全園(日よ水等) ※保水マルチ設置 ※グライ層の物理的改善、機械拡大	① 基本管理に基づき、適切な種類の樹種や果実生育を促進して、裂果しにくい果実を育てる。 ② 徹底したかん水により、根域からの水分が安定する。果実の生育ストレスを抑制することで、出来の確実性を高める。

裂果要因と対策をまとめた報告資料



普及拠点担当者との意見交換 (リモート会議)

農産園芸課 企画調整グループ

■普及指導計画取組状況報告会及び若手プロジェクト発表会をリモートで開催

- 企画調整グループは、2月1日に県庁、各普及拠点及び試験研究機関等をリモートで結び、普及指導計画取組状況報告会と若手プロジェクト発表会を開催した。
- 報告会では、各普及拠点から普及指導計画（普及ビジョン）の取組状況について報告されたほか、発表会では、地域の課題解決に取り組んだ若手職員からプロジェクトの内容が報告され、農林水産部長をはじめ部内関係者等から意見を受けた。
- 両会は、昨年まで県庁で開催していたが、リモートでの開催としたことにより、従来よりも多くの職員の参加が可能となるとともに、会議の様子を録画した映像の視聴等も可能となった。
- 今回聴取した指摘や意見等は、3月に当課が開催する次年度の普及計画策定のためのヒアリングにおいて再度検討することとしており、次年度以降の普及計画やプロジェクトに反映させることにより効果的な普及活動を推進することとしている。



若手プロジェクト発表会場



報告会視聴会場（県庁）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543